

静岡科学館 科学コミュニケーター育成講座 2019年度講座 受講生募集要項



科学ってサイコーに面白い。



わからないことを分かりやすく。

科学コミュニケーション

SCIENCE COMMUNICATION

わからないことをわかりやすく伝える人を育てます。むずかしいことを、おもしろく、たくさんの人に伝えます。
伝える人がわくわくするようなネットワークを創ります。科学の素晴らしさを知ったら、生活が豊かになります。

科学コミュニケーションはなぜ必要なの？

社会には科学技術があふれています。便利なものもあれば、原理が難しすぎて仕組みがよくわからないものもあります。また、社会の出来事にも、科学技術と密接にかかわっているものがありますが、中にはいろいろな要素が複雑に絡み合っていて、考え方や解決法が一つではないものもあります。どんなことでも、分からないよりも分かるほうがいい。自分なりの考えを持てるほうがいい。科学コミュニケーションは、研究者が扱うような内容でも、分かりやすく伝え、人々が社会の出来事を自分で考えることをお手伝いします。

静岡科学館はなぜ「科学コミュニケーター育成講座」を行うの？

これまでのワークショップやイベントは、科学を楽しみ、身近に感じてもらうことが主な目的でした。科学コミュニケーションを取り入れたワークショップやイベントは、これまでのものと全く性質が違います。つまり、市民が科学技術を自分の問題としてとらえ、より積極的に社会に参画することが主な目的になるのです。この講座では、科学技術に関する市民感情を理解し、科学技術や専門家と市民をつなぎ、考えることを促すことができる人材(科学コミュニケーター:SC)を育成し、わかりやすく面白い、市民が主体的に参加できるイベントやワークショップを静岡で広く行っていくことを目指します。また、この講座を受けた科学コミュニケーター同士のコミュニティを作り、継続的な活動を行っていくとともに、仲間同士の緊密な連携を深めていきます。

講座の概要

講座前半では科学コミュニケーションとは何か、その価値と役割、どのような場で行われるのか、どのようなスキルが必要かを、座学とワークショップ、課題を通して実践力を磨きます。講座後半では研究者の伝えたい内容をよりわかりやすく効果的に伝えるためのコーディネーション能力を重視した、研究者とのサイエンスカフェを企画実施します。講座終了後には、実践的な科学コミュニケーション活動を通して実地訓練を行えるよう、静岡科学館と生涯学習センターなどで場を提供し、将来的には自立して活動できるように支援します。

講座を通してどのような能力・スキルをつけられるの？

- ・コミュニケーションの諸スキル(市民に伝えるため、研究者を理解するために必要なコミュニケーションに関する基礎的なスキル)
- ・ファシリテーション能力(話し合いを深めたり、相互のコミュニケーションを促進するために必要なスキル)
- ・適切な企画力(科学コミュニケーション活動を企画するノウハウ)
- ・年代別の科学リテラシー(対象となる年齢層の人間の発達理解)
- ・企画を準備・運営する実践力(企画を実現するためのネットワークの活用や事前の連絡・調整のしかた)

対象

13回の講座中10回以上出席でき、学校・大学教員や生涯学習施設など教育・公共施設スタッフまたはボランティア、NPOや企業CSRなど社会活動を行っている市民、これから科学コミュニケーション活動を行いたい大学生・大学院生または社会人(科学分野・教育分野の経験がある人)：5名程度

※なお、本講座は静岡科学館の職員雇用とは関係ありません。

受講料

無料

教科書や活動用の物品は貸し出しいたします。

各回の入館料は各自ご負担ください(年間パスポート3,090円がお勧めです)

申し込み方法・締切

申込用紙に必要事項を記入のうえ、ファックス・郵送のいずれかで**2019年5月19日(日)までに静岡科学館「科学コミュニケーター担当」**までお送りください。二次募集のため、先着順で定員になり次第締め切ります。

選考方法

書類選考 書類を受け付け次第順次、結果をメールいたします。

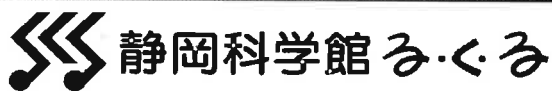
5月22日(水)までにお手元に届かない場合は、静岡科学館科学コミュニケーター育成講座担当までご連絡ください。

講師一覧

村山司さん (東海大学 教授)	山田和芳さん (ふじのくに地球環境史ミュージアム 教授)
小泉周さん (自然科学研究機構 特任教授)	八木絵香さん (大阪大学COデザインセンター 准教授)
生田領野さん (静岡大学 准教授)	加納圭さん (滋賀大学 准教授)
森田由子さん (知識流動システム研究所)	吉岡亜紀子さん (赤岡特許事務所 弁理士)
JAXA宇宙教育センター	
谷俊雄 (静岡科学館 次長)	代島慶一 (静岡科学館 スタッフ)
竹林大介 (静岡科学館 スタッフ)	山梨歩美 (静岡科学館 スタッフ)

科学コミュニケーター育成講座カリキュラム(予定)

回	日程	10:00~12:00	13:00~16:00	宿題
1	5/26(日)	<科学コミュニケーション概論> 講師: 静岡科学館 ・自己紹介 ・科学コミュニケーション概要、背景、育成像	<グループで意見をまとめる> 講師: 大阪大学 准教授 八木絵香さん ・さんかくテーブルワークショップ ・年代別の科学リテラシー・接遇	科学トピックスを1つ探し、2分で紹介する (お題: 最近自分が関心のある科学ニュース)
2	6/2(日)	<科学コミュニケーション概論> 講師: 静岡科学館 ・宿題発表 ・年代別実演、科学を言葉で伝える	<著作権・商標ワークショップ> 講師: 赤岡特許事務所 吉岡亜紀子さん ・著作権・商標ワークショップ	5分程度のプレゼンテーションを作る
3	6/16(日)	<プレゼンテーション> 講師: 静岡科学館 ・宿題発表 ・科学コミュニケーションで押さえておくこと	<企画> 講師: 静岡科学館 ・ワークショップの企画立案に向けて ・企画作りワークショップ	夏のサイエンス屋台村の企画案を作って5分で紹介
4	6/30(日)	<企画> 講師: 静岡科学館 ・宿題発表 ・3チームに分かれ企画を具体化する	<ワークショップを組み立てる> 講師: 滋賀大学 加納圭さん ワークショップ	チームごとに企画案をまとめる
5	7/14(日)	<実践> 講師: 静岡科学館 ・企画案宿題を詰める	<JAXA宇宙教育リーダーセミナー> 講師: JAXA宇宙教育センター ・JAXA宇宙教育リーダーセミナーを受講	夏のサイエンス屋台村企画の各種申請と試行会の準備
6	7/28(日)	<実践> 講師: 静岡科学館 ・企画試行会 ・振り返り	<実践> 企画準備	夏のサイエンス屋台村の準備
7	8/18(日)	<実践> 夏のサイエンス屋台村で企画を実行する 13:00~15:30		
8	9/29(日)	<研究者との科学コミュニケーション> 講師: 静岡科学館 ・サイエンスカフェの狙い説明 ・講師陣(村山・小泉・生田)顔合わせ	<研究者との科学コミュニケーション> 講師: 知識流動システム研究所 森田由子さん ・非専門家に伝える科学コミュニケーション	各自希望する講師を2人選び、サイエンスカフェ企画案を考えてくる
9	10/6(日)	<ファシリテーション> 講師: 静岡科学館 ・ファシリテーションとは 講師: 講座卒業生の経験紹介	<企画> ・サイエンスカフェ見学 ・宿題発表と企画グループ分け	チームごとに企画案をまとめる
10	10/20(日)	<企画> 講師: 静岡科学館 ・企画骨子をグループごとに策定、役割決め ・宿題発表	<広報> 講師: 静岡科学館 ・広報の基本 ・企画会議	チームごとに講師と打ち合わせを行う 広報案作成
11	11/3(日)	<広報> ・広報チラシ作成	<企画> ・企画に組み込む体験案を試行 ・企画会議	広報チラシ入稿
12	12/8(日) 1/26(日) 2/9(日)	<研究者との科学コミュニケーション・実践> サイエンスカフェ ※いずれか1日を選択 講師: 東海大学 村山司さん 会場⇒静岡科学館 静岡大学 生田領野さん 会場⇒葵生涯学習センター 自然科学研究機構 特任教授 小泉周さん 会場⇒静岡科学館 午前開催10:30~12:30		各自実施報告書
13	2/9(日)	<様々なSC活動・閉講式> 講師: ふじのくに地球環境史ミュージアム 山田和芳さん ・育成された科学コミュニケーターの活動事例 ・今後の活動について		事後アンケート



〒422-8067 静岡市駿河区南町14番25号
 エスパティオ8~10階
 TEL. 054-284-6960 / FAX. 054-284-6988
 E-MAIL: rukuru@scpf.shizuoka-city.or.jp
 (科学コミュニケーター育成講座担当)



2019年度科学コミュニケーター育成講座申込用紙(二次募集)

下記の必要事項を記入のうえ、ファックス・郵送にて静岡科学館「科学コミュニケーター育成講座担当」までお送りください。

ふりがな 氏名	
所属・大学名	
連絡先住所 <small>※欠席時の資料郵送先</small>	〒
電話番号・FAX番号	
Eメールアドレス <small>※講座連絡をメールで行います (PDFなど添付ファイルあり)</small>	(ハイフン、アンダーバー、小文字大文字など、わかりやすく書いてください)
活動分野 専門分野 経験	分野() 活動歴・研究歴がありましたら()
講座出席可能回数 <small>※応募時点で分かる範囲で</small>	全13回中 回出席可能 <small>※第1回・第7回・第8回・第12回はカリキュラム上必修となります。全13回中10回以上ご出席ください。</small>

必ずご記入ください 本講座に期待すること・科学コミュニケーションに関して考えていることを記述してください。